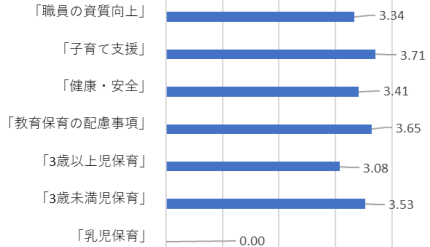


令和 6 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価			
作成日		令和 7 年 3 月 31 日	
法人名		学校法人 永原学園	
園名		西九州大学附属 三光幼稚園	
ま と め		全体平均 3.45	
第 2 章 第 3 節	・日々の流れが崩れないように、ゆとりあるカリキュラムを心掛けている。		
満 1 歳以上満 3 歳児 未満の園児の保育	・いつもの遊びから色々な遊びをして楽しめるように心掛けて関わった。		
	・五感を感じられるように、子どもが触れたものはどうだったのか、どんな匂いだったのかを言葉にして表現する援助を行った。		
	・一人一人の発達段階に合わせて、少しずつ一人のできるような援助を心掛けた。		
	・初めての食べ物も少しでも食べてみようと思えるように関わるよう心掛けた。		
	・季節の行事など由来を絵本や紙芝居で伝えていった。		
	・色々な言葉を使い、やりとりが楽しめるように心掛けて関わった。		
	・子どもたちからのつぶやきを大切にし、イメージが広がるように心掛けて関わった。		
第 2 章 第 4 節	・やってみたいけど輪に入れないという子がいたので、声を掛けて様々な遊びや活動に楽しめるように関わってきた。		
満 3 歳児以上の 園児の教育及び保育	・遊びや活動の中で、色々な素材や道具、廃材を使って物作りを楽しめるように、子どもの選択を大事に保育をしてきた。		
	・自分の勝手な読み取りで判断せずに、ありのままの子どもの姿に目を向けた関わりを心掛けた。		
	・子どもたちに気持ちを向けた温かい受け入れの中で挨拶を交わすことを心掛けた。		
	・自分が心動かされたことは、子どもに話をしたり、子どもが言いたそうなことは目をみて話を聞くようにして、気持ちに共感するようにしていた。		
	・季節によって変わる自然物に興味をもてるように、子どもの目のつくところに花や木の実など飾るように心掛けた。		
	・研修で、指示を待つ子どもにならないようにと言うことを聞き、自分で動けるように「次は何をしましょう」より「次は何をするの？」と聞くように心掛けていた。		
	・集団生活の中で必要だと思うことは、その都度伝えていこう心掛けた。ただルールだからでなく、周りの人への配慮が大事だということを話すようにしていた。		
第 2 章 第 5 章	・子どもの状態に応じて、栄養士や保健師に相談するようにしている。		
教育及び保育の実践 に関わる配慮事項	・男女の固定概念をできるだけなくし、遊びや活動など自由にできるように配慮してきた。		
	・意欲的に取り組みたくなる活動を提供するよう、日頃の遊びの様子などをしっかりと観察するように心掛けていた。		
	・子どもの変化に気づけるよう、一人一人をよく観察し、保護者にも伝え連携できるように心掛けた。		
	・苦手な事や援助が必要な時は見守りながらも、児の気持ちに寄り添い必要に応じて援助し共に達成感を味わった。		
	・自分の力で試行錯誤しながら取り組んでいる姿を見守り、必要に応じて援助することを心掛けた。		
	・人権に配慮した関わりや、援助ができるように心掛けた。		
	第 3 章	・朝の受け入れ時に子ども挨拶や表情を見ながら。体調把握を心掛けた。体調不良等が見られたときは、保護者に速やかに連絡を取り、適切な対応を心掛けた。	
健康及び安全	・専門機関との繋がりを大切に相談連絡をすると共に、必要に応じて保護者と連絡をとることを心掛けた。		
	・定期的に点検するなどして、適切な環境が維持できるようにしている。		
	・同じ事故が起こらないように記録し、全職員が共通理解に努めている。		
	第 4 章	・保護者とともに子どもの成長と一緒に喜べるよう、日頃から成長を伝えるようにしている。	
子育ての支援	・連絡帳や送迎時などで子どもの姿を直接伝えることができた。また、より伝わるように写真を送るなどもした。		
	・保護者の表情から、困っていると感じたときは、自分から声を掛け、保護者の思いを聞くよう心掛けた。保護者の思いを知ることで、サポートできることは援助するようにしていた。自己決定は保護者が行うよう常に心掛けている。		
	・巡回相談の先生が定期的に来園されるので、聞きたいことはすぐに聞ける体制だと思う。保護者とのやりとりも、気付いたことは担任に投げかけ、連携しやすいようにサポートしていた。		
	第 5 章	・保育者としての専門性を高める為に、園内外の研修を受け、学んだり、実践に繋げたりして、保育に努めてきた。	
職員の資質向上	・研修や研究を行いながら、更により保育ができるように努めている。		
	・研修で得た学びは、参加してない職員にも伝えながら学びを深められるように心掛けている。		
	・様々な研修が計画・実施されていて、資料での学びも心掛けた。		
	総合	子ども主体の保育の在り方について、担任達は種々論議しながらクラス単位で工夫を重ねた。子ども達が生き生きと積極的に取り組む活動や遊びの姿を連絡アプリなどで保護者と共有できたことが、昨年に比べて自己評価が上がったことにもつながったと思う。目標やねらいを学年全体に置くのではなく、クラス単位、個人別におくことで若い保育者も具体的に目標を立てやすくなったのではないかと感じる。子どもの成長を確認しながら、更に学ぼうと前向きに取り組む保育者の姿が見えた。	
データ表			データグラフ
内容	項目数	平均	
「3 歳未満児保育」	32	3.53	
「3歳以上児保育」	30	3.08	
「教育保育の配慮事項」	16	3.65	
「健康・安全」	29	3.41	
「子育て支援」	18	3.71	
「職員の資質向上」	9	3.34	
計	134	3.45	